

家賃支援金 給付

活用して商売続けよう 相談は民商へ

奈良民商ニュース



7月14日、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、売上が減少した中小業者を対象に、家賃支援給付金の申請受付が始まりました。
奈良民商は28日、制度を知って活用をすすめようと、学習会を昼、夜2回開催し、のべ22人が参加しました。

「持続化給付金と比べ手続きが難しい」との感想が多く聞かれました。

発行 奈良民主商工会
奈良市大森西町13-16
電話0742-33-7266
FAX 0742-34-5826
HP naramsyo.jp

記帳会

【日時】
8月19日(水)
13:30
【持ち物】
領収書・帳簿
筆記用具・電卓



申請方法学ぶ

何としても商売続けよう

夜の部では、はじめに浜中達也会長(製菓)・大安寺支部)が、「申請方法を学び、何としても商売を続けましょう」とあいさつしました。

坂田一仁事務局次長が「5月以降、1ヶ月で前年比50%以上、または3ヶ月で30%以上の売上減が対象」家賃の3分の2の6ヶ月分が支給」申請はインターネットのみ」確定申告書、売上帳、賃貸借契約書、直前3ヶ月の家賃の領収書等が必要」など、制度の概要を説明しました。

領収書など疑問がいっぱい

申請を簡素に

参加者からは「家賃を銀行振込で払っている場合はどうすればいいの?」「ヤさん(古物商)・済美支部)、4月に半分、家賃を先払いしている場合は?」松田順子さん(塗装)・南支部)などの質問が出されました。

契約書は店舗分で6ページ、駐車場の分を加えるとすごい枚数になる。1つファイルで送信

絵手紙教室

絵手紙教室は、新型コロナウイルスの感染予防と、みなさんの健康を守るためにしばらくお休みします。

するのは大変」岡本淳二さん(自動車コーティング)・大安寺支部)、預金通帳で家賃の支払いが証明できれば契約書は不要では」高原雄亮さん(飲食)・鼓阪支部)など、煩雑な申請方法に疑問や怒りの声も上がりました。

8月3日から申請会 契約書で事前打ち合わせを

交流を通じ、契約書に関して賃借人(賃貸人)の名義が変わっている」契約書そのものが残っていない」など、20人が

賃貸人の署名の入った証明書が必要であることが判明。制度の簡素化が求められることが浮き彫りになりました。
最後に坂田事務局次長は「契約については、それぞれの条件によって必要書類が異なるため、申請会に参加する前に打ち合わせが必要。申請方法に書類送付を認めさせるなど、給付対象を誰一人取り残さない制度の改善を求めましょう。会外の業者にも知らせて仲間を増やしましょう」とよびかけ、参加者はうなずいていました。

チヨウセンアサガオ 咲きました



中尾洋子さん(電気工事)・大安寺支部)の庭で チヨウ

センアサガオ」が咲きました。
白くて美しい花です。名前がわからない」とのこと、事務局で調べたところ、チヨウセンアサガオ」だとわかりました。
中尾さんは「毎年咲くのが楽しみです。いい香りよ。これからも大切に育てていきたい」と話しています。

黙々と商売を続けたい

奈良市の西部、阪奈道路・学園前インター近くの道路沿い、菅野台で、30年にわたって「讃岐うどん舞々」を営む其田繁夫さんにお話を聞きました。

本場讃岐手打ちうどん 舞々 其田繁夫さん

舞鶴から大阪へ 喫茶舞々」からスタート

其田さんは京都府舞鶴市の出身。大阪市内の菓子問屋に就職し、26歳のときに市内の南田辺で喫茶店を開店し、「舞鶴の舞」をとって、屋号を「喫茶舞々」と名づけ10年間営業しました。

36歳の時、知人が東大阪市若

江岩田でうどん店を開店することになり、店が軌道に乗るまでの半年間、仕込みや出前などの手伝いをしました。

このときの経験を生かして、其田さんは大阪市湊町、湊町駅現在のJR難波駅裏でカウソターのみの小さなうどん店を開店しました。開店当時は全くとお客が入らず、これではやっていけない」と思い、近隣の会社半額のチケット配布をしました。最初は半信半疑で来たお客も、其田さんのうどんの味を気に入って常連になってくれました。

姉の店を譲り受け

「讃岐うどん舞々」を開業

ほどなくして、妻の姉、文子さんが奈良で営んでいた喫茶店を譲るといふ話が持ち上がり、現在の場所で「讃岐うどん舞々」を開業することになりました。其田さんが41歳の時でした。

うどんは手打ち

だしにもこだわって

開店して4年位は、湊町時代の常連さんも通ってくれていましたが、今は近所のお客さんがほとんどです。其田さんは1人で店を切り盛りしています。うどんは手打ち、毎日気候と相談しながら練り上げます。だしにもこだわり、2種類の昆布を使っています。ようやく自分

の納得のいく味に仕上がった」と話します。

出前もやっています。注文が重なる時は、1時間半くらいかかるねえ」と言いますが、お客さんは其田さんが1人でやっているのを知っているので、納得しているそうです。

26歳のときに喫茶店を開業してから45年間1度も休んだことはない其田さん。現在のコロナ禍では、有名人の訃報が流れた翌日はお客が1人だけに。このままだとやっつけいけないと思っ」と振り返りますが、今は以前のように客足が戻っています。

兄から聞いて入会

開業当初から民商とともに

其田さんと民商の出会い、喫茶舞々」時代から。確定申告で困っている時、日本共産党の活動に熱心だった兄、耕一さんから教えてもらい入会しました。以来、移転してもずっと地域の民商に所属しています。

おいしかった」励みに

黙々と商売続けたい

其田さんは、お客さんが、ただ「おいしかったな」と思っただけで帰ってくれればいい。自分はこのままが一番。黙々と商売を続けていければいいなと思う」と話しています。



「今でも喫茶店の雰囲気が残る店内。開店当時は天井にシャンデリアが据え付けられていました。